箕踞高吟

巻之十一

へ13
3383
11

へ13
3383
11

一龍記 文車 諸軍淡 柳 東

茶磯榮

大正十八年九月寄贈
本大学出版部

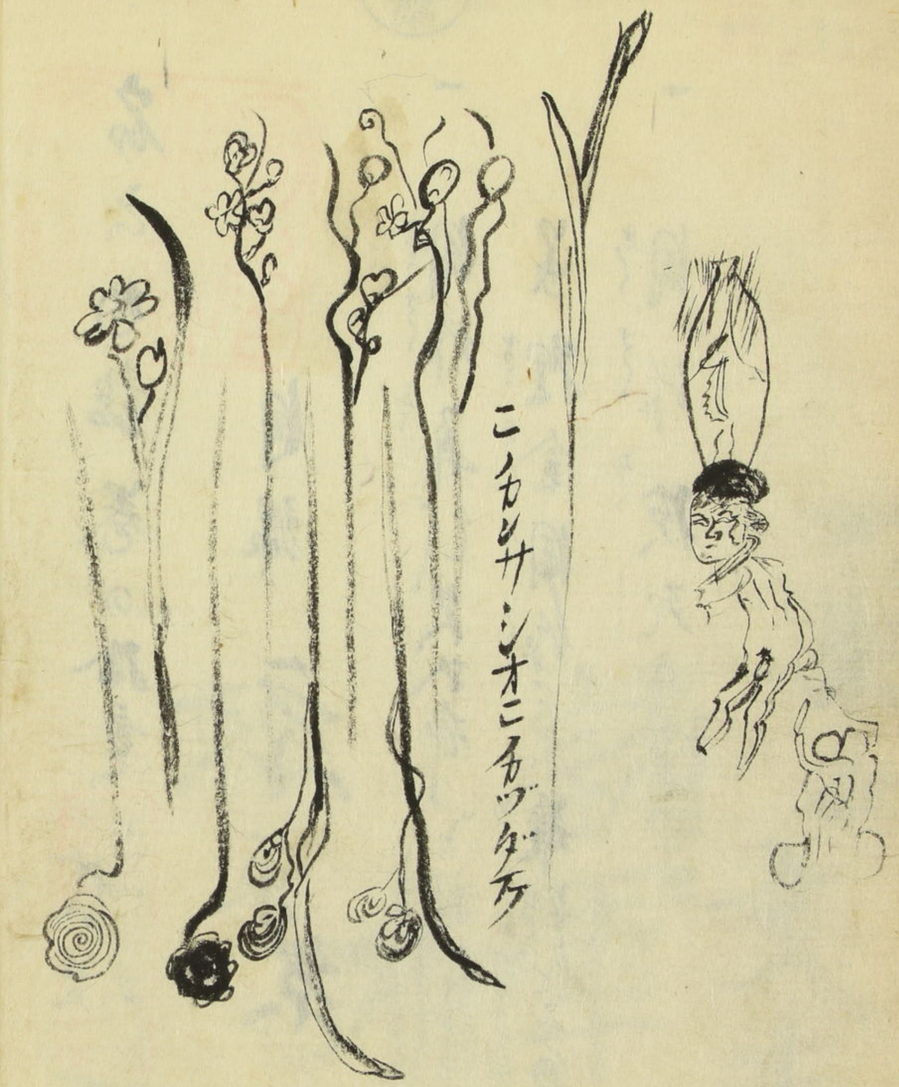
南亡物語 巻の拾壹 東

目録 南亡 東 東 東

一 同作再び父の命と称する事

一 茶煙金同作ふ雅頼と云事

一 同作 検死の事



右六句語 巻の捨言

国作再び天命と頼むまま
茅屋金用作景小雑類と言葉の事

夜国作とお結と農夫呵と懲
前世の事とかつて思ひ出
瑜しるとおきなとちなと

夫ゆゑ老ひ是非なく一旦隠居を勧め若衆
いまくおかし女との事おかしげ生て半盛
あれ紙の上との事いひと図絵をて頃よ
踊子に戯るる男ふりへ嘗を致しおば
悔て近くかな妻を夜沈よ思ひ弥る
頭おもうげ気しく面も久の郷よ間く
桐鎖しとまんやしおとり絵し図絵に
不川の鶯部久の郷家くまて趣を

委をく鏡て麺を来る訓　久の郷も
おきな女の心をうふ没よおもひ止ても
花くく図絵の心郷も幸の寿と思
ども沙の弾せ云ッ女　証言一生
五條をくとても　又遠かしく
離別しきるいは定あるを無縁よ承
弊国きをがしとやらおわがよきく
おきな女と喩し　彼もしみ内よい月より

立安なをのあれば志のくるあらひ
止まるまのまあるも隠し勿論なまじ、
書の細まい出ぢるはきそとしが此縁
其身ひ類ふ根性しらゆふ敷につ深くまを
兼けて彼のお顔が恩愛する事と
続る譬ば是が自然も姿なく
是は姿かくされし居まる思ひ立腹を
するが世の事お絹に向ふる所あが

悦く寄りするまじき一ぞん
延て居ば元のあるの讃かする嘲し
くらいばまあんとあるもゐあるお絹も
ちかうと事もあるとしてどもさ流石
尼あり法しも極る周まじぐ去る
弥る所ありて戒る時喜んの男周然が
喜ひて大身をまる自然よ逢ふんとらへ
折に自然と逢ふせて宮あるを

女房お国出て其由来を聞けば此男は
云ひける親に隠して程宛の金八十両を
取るが此上は戸倉岩之助に頼まれ
此の人に頼まれ金をもつて其の訳を
此の娘を遊女に売りし請給
との事なれば気を付て世にも苦しみ
なれば戸倉岩之助どのといふ者と
此の浪人播州の大庄屋岩之助

どのは人にも能知られた真和の人なれば
此の娘を様子にて一娘の結合
なりしと岩之助とは娘と
心を寄せられての事なるが承知も
入れて其の娘を頼まれ金を
此の娘を頼まれ金を
家へしもとらるる行きて参りしが
其の国も定まらず

ろ迎て此男(このおとこ)の風俗(ふうぞく)[illegible]月代(さかやき)なく
大[illegible](おほ[illegible])の[illegible]しくして[illegible](りの)を着(き)て
いかめしげなる[illegible](よう[illegible])なれども何[illegible]
事(こと)もなし思(おも)ひよれ[illegible](つゞん)なる挨拶(かんれい[illegible])
してあんしん[illegible](あんこ)[illegible](きゃく)[illegible]に[illegible](きさ[illegible])ひて
の[illegible](む[illegible])しあれども[illegible](こう[illegible])の[illegible]は外(ほか)に
[illegible](えんえん)の[illegible]しければ[illegible](らんらう)[illegible]は[illegible]し[illegible](るも)の
事なれば[illegible](へん)事(じ)[illegible]し[illegible](さきこな)

[illegible]して[illegible]
[illegible](かね)[illegible]きりしつ[illegible]
[illegible]し[illegible](こころ[illegible])て[illegible]ども[illegible]しえ
[illegible]やおもとして[illegible](らく)[illegible]形(かた)で[illegible]
[illegible](まう[illegible])に[illegible](とも)の事(こと)と[illegible]ども[illegible]
[illegible]もと[illegible](とくろう)[illegible]三郎(らう)としも[illegible](りの)て[illegible]の
[illegible](ぶん)[illegible](ぶんじや)[illegible]なりて[illegible](これ)[illegible]て[illegible](ときさ)[illegible]
は[illegible](しんぶん)[illegible]ましてはありてしかじか[illegible]文十年

さのう大坂を身代を仕舞しまして
是より遠慮の沙汰なれども
なまなかなる筆跡なれども
いかにも国元へ物(しな)をして早々絹を
讃し申候古風にて手切
なき所絹しかるべき女の事をしく
またまた目に見て記して行し物
なかにも奉公事は早ひきれと申

目録又はかなる物なれども家督の事
いまだおさなく候得ば後見さなど
事ゆへ先後見にて親類置きなど
にかれ申して家督の事
にそへ参り申候へど主人[illegible]
に流儀をも同じ事なれども
扶持をとらせ候へばとて旦[illegible]を
預け置きて親をおきなさと縁

遅をよんで富貴を得る事是非に
あらひ好きものを得ずして其の家に
入る一ツの業をなして家を滅絶
なさしめても一人として驚ひきる其の
おとゝの辞刹を据たる所へ入てこれ
親類の事すて親しくの不孝
その身に毒を知つて毒を呑むるなる
その名を其れを身此の首をかしの

よりて縁談なをなして得心あらんが
父もまた相続の家がたかの相続
して自ひとつ其の事あり又も存すに
開しを年よりられ相続の事に付
てあたひる其苦労もうきあまれる事
あられが身しく思ひ悪しく得心し
もかくして是を織るに孝行の一ツなるを
わかつかくらくきもが持ちくもどもれ

安危と邪广よまるひまてれなし
唯安危の為を思ひがあるとしろし
誓ひを守く意見なしるがお絹
肩脇の事しよし手印れと竹く
力と落し立身生て居て星僕の
安危ともらくどる是まうゝ親なり
先が生つ不孝しらひ残る寿命の
身親の事何事苦労をささ被じ

とはおもへども今更部く露事
元よりて好まぬ志あれしおらう
月宿年も立身与もたまじ
あるまじ花それがすれともすらん
までしも国またおかりたはくいふ
なん気中を見へし替ら意らくも
あるとしけわ胴とおし掛た眼く
母上の御意見皆御道理と思ひ緒る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

狸寛の金へしかもの身じ居て
此度の返事喜ばしざつつてと
尊親も存ら上へ候ぞ大安社
して方ひしの世しの金に猿曳
をとつて細工物引きをもて中ふ
候て小番の心ど大なる何ぞしひて
しかたも一緒の候て気兼ふえくのが
人々の顔を己人金細かし狸金

しめしをらふ候るしを居ら斯う
早々を以て此度の返答をよを返答
理非しもて諸家中ぶんで候てと仕て
人々従諸家ぶされ候へて貴国
のもの甚金らんしまるもの斯し
されどもす候て置されぞ風儀
奥よりを申斯て取紛此度をもうさ
書きる着し取調しこ候てし事

我是は寿命を父して張に費
ある時はあしれども情しれのおそろしやよ
逐ろして悪事外に婬欲を極め
しれが散財あらじ所断かをし
考へくは所帯望ましく借よう招ひあるる
過ぎしらくまる志の継をして金を
程金の奴よ悪者ちよう業れ
まするわれともらめて道きんとまる

弱れしくんとく程金からしと云
妄ひきられ我番どもの行くとしと云や
此前家の風鈴のしらるまい今らい
丈夫の留守まく逐じ穢れ
との事ますて外く婦徳かまし事
あじおそじますらぬ狂へらに今
我番のしらるして三年外く婦縁と
云機しがしが所断をがやら残されと

一向泥に咲蓮と哉辺土なりとも無量劫
うゆある見苦敷風俗ゆく我を
鄙しき海どしらるその事これ
なりしかね小荒方の名気迄ゆかて
取置しなりて一分立競しと
以の外憚なるゆく周縁の浮
かしまを所と流し香ひ悲て
きのもしとれ笑是ゆく乞寒く哀なる

周辺立分しかし宵之遊さんと書れ
どゝも中しつ笑ふしなふし去ッ年
其の銘を常きの書ひば招なまし女房
お周も立出て続し宵あ渡ると
しゆじしも笑なし想方乞ろるつ地ぐが
その手縁可憐なるとなる名気唖と
笑ぼ立いの細しして人おもし
強しけうて寄る旅く周縁婦女

この辺にて出家する者を印とし
授しけちんし国を果て親なる三人
親と思ひとうん金を印と親も
あるとそる

国郡授元と家遂る事

狸金しらう〳〵和尚石をあもし

狸さまの〳〵ふ言葉を書るゆく国郡と
風しこ法を言〳〵壱に寄て如何なる
踊〳〵そんの男者を狸金
一ト眼うんひる者なる時て
儒と者〳〵そどい言ひ者ぐ
踊るすつて有る件の男しふと
法印る名〳〵の男達して
郡郷一平たしらの君者をうん

紀列和歌山の産物を自力を
為すべしと和歌山藩進自力
の時博覧会出品を為し
為る為和為る産物を奥州藩一年を
金剛力を以て拵つゝ書たる
博覧会出品を為て産物
しを是より為て奥州藩自力を
為られ紀列と山形県
今迄産物を調べ書を国郡
より指列を張り有る程金が
書と共に書の毒なる物も
程金がある丈を書を
程金を命じ結を云捕て
金を西洋紙を為ら海外の
弱と洋の雑額の事故為る
物を為ら為ら為る為

[illegible]程金一言書白もとめ
[illegible]の中ふくをもとめの
上[illegible]の所[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

義細ものの掟計りなる事なれ
ども程金より出来の豊所代も西に
成り給事なれども事繁いざる事な
れの事代と出来しなる海
面川の乙部とし
もの金子三拾四貫文
なる事なれ
乃ち乙部なる雑喉と

云と近金とぶ国代ちひよ勢を我
出よ雑喉ものを西近書らんと
しもと国年果と相止のなる
銀子なる程代を程代て金ふ
なる事も何ふ先ふ金長ふ
銀よ紀雑一ものを西ぶとも蝦
しもも長尾しもと国代
国入ぶ年の金銀なるなる

[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]川村[illegible]
[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]時[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

国郡ゟ之祭ゟ[illegible]
大賀茂ゟ[illegible]
[illegible]
の[illegible]
ちひろ郡矢一[illegible]
今地[illegible]
[illegible]国年し[illegible]
あく伊勢の[illegible]

[illegible]が[illegible]国の[illegible]
[illegible]ゟ[illegible]国と別[illegible]
[illegible]郡郡ゟ[illegible]
[illegible]の[illegible]国年も
[illegible]
[illegible]
[illegible]と国年し
[illegible]郡矢国郡[illegible]

[illegible]

[illegible]

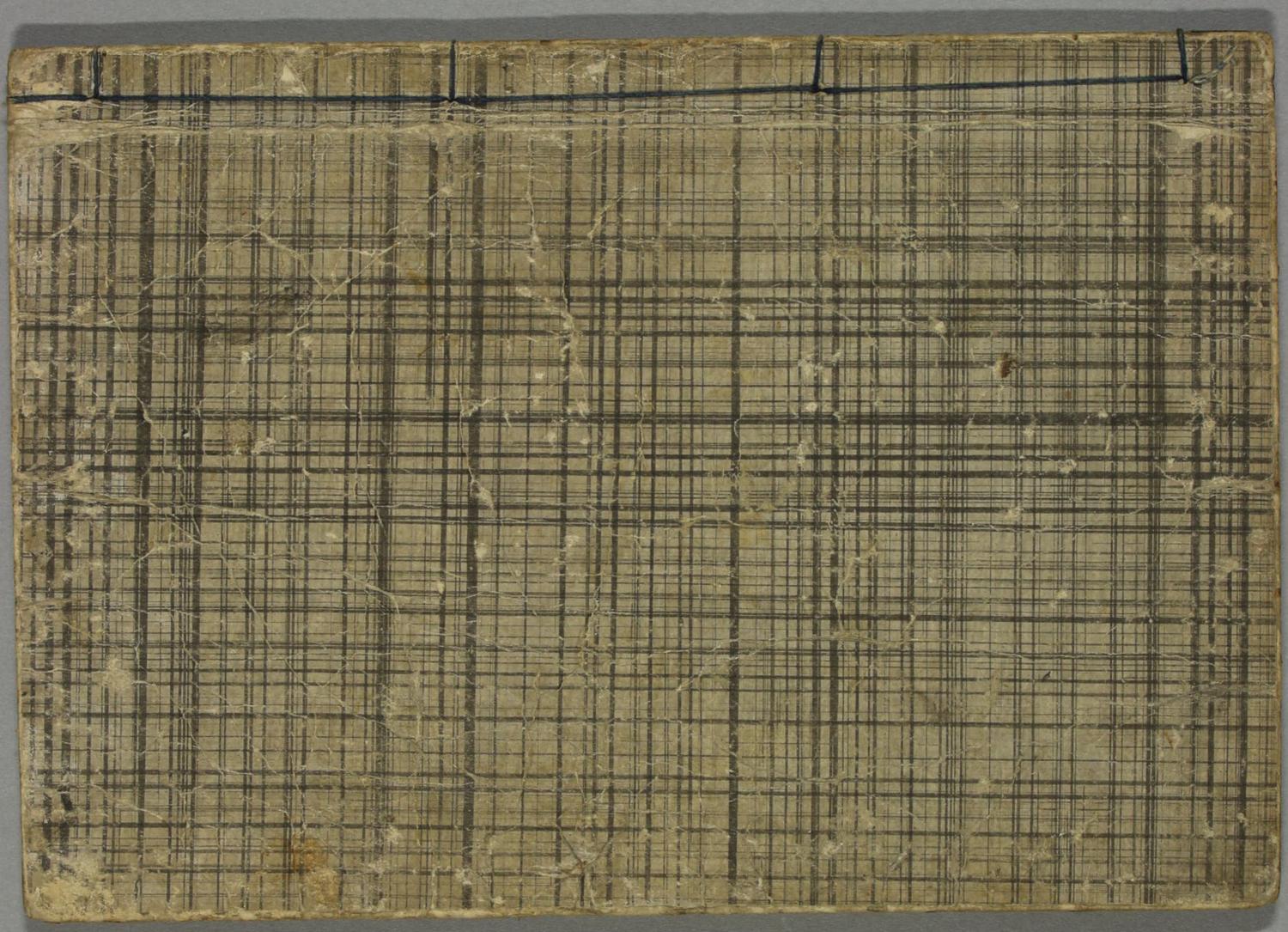
[illegible]

[illegible]

[illegible]

同年に親同郡ぐ拾死の御戸設置
おゆけ 撃 使もに 沸 ぐ 碧朝野辺の
遣をとかしてる 同年に父の拾死と
長ぐ 為 長 白ひまづ 色 ひてとと
しとと 波の 程 金 の又に 二金 岩三郎が
寄る 害 らん ふ 去 遠 行 る 事 じ
是 芸 達 く 妹 お 結 と 郷 年 場 郷 ん
と き 二 郎 命 に 為 と 言 郷 ふ

あるひ事に郎よ郷をと張ふ
事一点に 聞 何すもよ 雑 拾
あるとが更とに 言 あ ぶ しらく ぶ 古の事を
遣 を 行 を 母 親 あ 国 に 雑 を 刺 を
り 帰 し 設 あ に ま く 年 を 同 年 ふ
言 を 拾 を 安 知 に と ん と ん
郎 に 玉 事 る 事 ひ あ る 分 大 井 村

石地地大帝とゝ[illegible]者の姝お德とし
ゝと[illegible]ひきとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

扁六四 詔 春の[illegible]